

「業務再開」路線のペテン性と反動性を暴く!



80.7.16
No. 483

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二二五八〇九(公衆)四三(22)七二〇七

『84名＝本部派、このものはあれはマズイ……』 職場での追及にこころたさざる自称佐倉執行委員

七月十四日、「本部」革マル反動分子村上・室井らがひさかたぶりに佐倉機関区に侵入してきた。そして村上いわく、「佐倉と津田沼で業務再開したから今後公然とこられる」と語ったという。この「業務再開」路線は、わが動労千葉、とりわけ津田沼支部組合員の連日にわたる粘り強い、裏切り分子に対する糾弾・追及・説得行動と、六・二八〇七・五の総決起により「再建支部大会」策動が粉碎され追いつめられた「本部」反動分子が、動揺する裏切り分子らをサギ的に「再建地本」へかこいこむための大ペテンである。

「業務再開」の「組織」は、 動労千葉解体の「出先機関」

判明したそのデータは実態を明らかにすると、佐倉が六月九日「八十四名」で、津田沼が六月十六日「十七名」で「結成された」ということになっている。それにもとづいて七月十日に土屋粹・嶋田誠・斉藤(吉)などが、「本部」反動分子につれられて千葉局へ「佐倉・津田沼」両支部の業務再開を申し入れたそうである。佐倉・津田沼「結成」のデッチ上げ、ペテン性は後述するが、いづれにせよ、この「業務再開」と自称する「組織」なるものは、動労千葉の闘いを妨害し、権利を侵害し、当局と連合して弾圧処分要請をもつばらとし、「四・一七」「四・一五」暴力襲撃を

佐倉には、現時点ですでに動労千葉への結集を完了した仲間以外に、「動労千葉には未結集だが『本部』にもつかない。もう少し考えさせてほしい」という仲間が八十名内外存在しているが「本部」反動分子と土屋粹は、何の提起も相談もなくこれを「本部派」として申請するというデータをやり方ですり抜けようとしたのである。

常時導入する、当局・革マルの御用組織そのものであることは明らかである。現に土屋粹の手引きにより、七月十四日、「本部」革マル極悪分子、村上・室井等が佐倉に侵入し「動労千葉解体・再建」を叫んでいる。したがって、「俺は、動労千葉に敵対するつもりはない」等と何度いひのがれようとも、現にやっている事は、「本部」革マルの極悪暴力分子を、常時職場につれこみ、動労千葉の職場を荒らしてまわる敵対行為であり、「本部」革マル分子の先兵をつとめているではないか。

その証拠には、「支部執行部」に名を連ねている「自称執行委員」の一員ですら、「八十四名」というのは、まずい」と言明してさえいる。また、「本部」革マル極悪分子村上やその先兵である土屋粹は、わが動労千葉組合員の追及にあらうや、全く答えることができないオソマツぶりである。さらには追及されるや、「他・労組にはいふ必要がない」と口を閉ざして逃げまわっている。

「佐倉84名」の虚構・
ペテンにまき起る怒り

この、「業務再開」路線なるものの、ペテン性・反動性とその破産性は、全く明らかである。その実態は、正規の規約・規則にもとづく大会も、選挙も行わず、勝手に一部の裏切り分子がねつ造したもので、およそ労働組合とは無縁の「組織」である。しかも「八十四名」を勝手に「本部派」と自称した事に対して、その当事者も含め、佐倉の職場の仲間は激しい怒りを表明している。それは、全くのウソでありペテンだからである。

土屋粹をはじめとする裏切り分子は、「本部」革マル反動分子と共に動労「本部」としてやるといふならば次のことに答えなければならぬ。①革マル学生部隊まで導入して四・一七津田沼を襲撃し片岡津田沼支部長に頭蓋骨折を負わせた暴挙を容認するというのか。②「本部」暴力分子の二百六十名のヘル部隊による四・一五スト破り襲撃と当局への処分要請に布施行委員を免職にさせた処分に賛同するというのか。③貨物安定宣言を発し、合理化推進を表明している「本部」の路線を認め五五・一〇合理化、乗務員運用合理化を佐倉でも推進していくというのか。④五六・三ジェット燃料貨車輸送延長攻撃に、いかなる方針でのぞむというのか。

土屋粹および裏切り分子は、以上のことに責任をもって答えてみよ。